

第334号
2004年(平成16年)
11月15日
発行 明治大学
編集 明治大学広報部
TEL 03(3296)4083
E-mail: koho@mics.meiji.ac.jp
東京都千代田区神田駿河台1-1(〒101-8301)
http://www.meiji.ac.jp/

競走部 やったぞ！予選会突破 14年ぶり「箱根」出場

第4回 『生明祭』 に行こう!!
(8面)

英会話春期集中講座受講生募集
(5面)



伝統の紫紺のユニフォームが新春の箱根路に戻ってくる。第81回東京箱根間往復大学駅伝競走(来年1月2、3日)の予選会が10月16日、東京・立川市の陸上自衛隊立川駐屯地から国営昭和記念公園内にゴールする20キロのコースで行われ、明大が3位に入り、91年大会以来14年ぶり48回目の本戦出場を決めた。予選会では「紺」だったユニフォームも本大会では伝統の明大カラー「紫紺」に変わる。
(詳細2面)

本戦出場が決まり喜びを爆発させる選手たち

本戦出場が決まり喜びを爆発させる選手たち

入山卓司・長距離ブロック長 (経営4)

自分の結果(個人256位)が悪かったのでくやし

い気持ちもありますが、チームのみんなが頑張ってくれて、どちらかというとうれしい気持ちの方が大きいんです。予選会までは箱根に出ることが目標でしたが、今日の3位という結果でシード権という目標ができました。本番までの2カ月間、モチベーションも高く持っていたと思うので、さらなる飛躍を目指して頑張っていきたいです。ロードでは「メイジ」と叫んでください。走っていても聞こえます。

幸田高明・主将(政経3)

ケガで状態が悪くても役割としてはタイムをかせがなくてはいいけない立場なので、そのプレッシャーが使命感に変わった。本戦まで競走部の主将として、チームの雰囲気盛り上げていきたい。ひとりのランナーとしては、2区で他大のエースたちと戦って勝ちたい。それがエースとしての役割だと思

う。目標はシード権獲得。やっとスタートラインに立った。みんながみちがえるほど積極的になってきた。14年間待たせてしまったファンの方々、夢をかなえることができよかったです。今後応援よろしくお願いします。

点 本学に就任して3年目。これまでに行事の際に校歌を歌う機会が幾度かあった。隣り合う校友、教職員と肩を組んで建学の理念を高らかに謳うときは少し気恥ずかしいが、伝統ある大学で研究・教育に勤しむことの誇りさえ感じられる幸福なときだ。しかし、最近では現職教員としての責任の重さをも感じることが多くなった。続発する学生不祥事、ここにいる在学生、教職員だけではなく、OB・OGの誇りにもきつと影を落としていることだろう。▼新聞記者をしているかつての同級生に、起訴もされていない段階で大学名を記事に出すのは不適當ではないかと苦情を言ったことがある。彼は苦笑しながら「明治ですから」と答えた▼学部生だけで3万人を超える大所帯だ。毎年、不祥事で問題になる学生の割合は1%にも満たないが、彼らも一旦は校門をくぐり、校歌を歌うことがあったに違いない。そのとき彼らの心の隙に忍び込んだのは、誇りとよく似た「驕り」だったのでないか。そしてそれは私たちの誰のそばにも忍び寄る可能性がある▼学生処分を検討する会議は重苦しい。沈み込む私にある先生が「校歌の3番の歌詞を知っていますか」と語りかけてくれた。あまり知られていないその歌詞は「正義の鐘を打ち鳴らさむ」だ。大学祭のときに、明早戦のときに、学生たちが隣り合う校友たちといつも胸を張って3番まで歌えるような大学でありたい。不祥事の多い、あたり前の日常をそれとなく誇りにできる大学への改革も今日では重要課題ではないか。

古豪復活

10^{キロ}の通過点をトップで通過

「第3位：明治大学」の発表と同時に、明大選手関係者で占められた発表会場の一角からこの日一番の大歓声が沸き上がった。06年の創部100周年を前に、7度の優勝を誇る古豪が、14年ぶりに箱根にかえってくる。

明大は10^{キロ}の通過ポイントをトップで10人が通過。15^{キロ}での10人通過は3位、ゴールでは6位と順位を落としたものの、池邊稔(商2)とエースの幸田が全体の9位、10位でゴール。あとにつづく8人も1時間2分台までにゴールし、総合記録10時間10分52秒で早大、東大について堂々の3位で出場権を獲得した。

意識改革でつかんだ出場権

予選会は9つの出場枠をかけて争われ、6位までは上位10人の合計タイムで順位が決まり、7位以下は関東学生対校選手権(関東インカレ)の成績などをタイムに換算して、予選会の合計タイムから差し引いて順位を決める。



明大トップの快走を見せた池邊

就任当初は「伝統あるチームの選手たちが練習時間に平気で遅れてくるような状態だった」という。そこで、深夜12時だった門限を午後10時にすることから始め、アルバイトや茶髪も禁止。今春には実業団のチームや強豪校の合宿に参加して、「井の中の蛙だった」(幸田)選手たちに刺激を与えた。

第81回箱根駅伝出場校		
シード校(前回上位10校)		
駒大	39年連続	39回目
東海大	33年連続	33回目
亜細亜大	4年連続	28回目
法大	7年連続	69回目
順大	48年連続	48回目
東洋大	3年連続	63回目
中大	76年連続	79回目
神奈川大	14年連続	37回目
日体大	57年連続	57回目
日大	8年連続	76回目
予選会突破9校		
早大	29年連続	74回目
大東大	38年連続	38回目
明大	14年ぶり	48回目
専大	2年ぶり	61回目
山梨学大	19年連続	19回目
中央学大	3年連続	6回目
拓大	2年ぶり	31回目
城西大	2年連続	2回目
帝京大	8年連続	8回目
関東学連選抜(オープン参加)		

箱根駅伝出場回数・優勝回数ランキング

(第1回~第80回)

出場回数			優勝回数		
順位	大学名	回数	順位	大学名	回数
1	中大	78	1	中大	14
2	日体大	75	2	早大	12
3	早大	73	2	日体大	12
4	法大	68	4	順大	10
5	筑波大	62	5	日体大	9
5	東農大	62	6	明大	7
5	東洋大	62	7	東大	4
8	専大	60	7	駒大	4
9	日体大	56	8	山梨学大	3
10	明大	47	10	神奈川大	2

明大と箱根駅伝

「今はそれぞれが自覚を持って臨んでいる。自ら進んで行動できるようなった」と手ごたえを感じている。「これまでは『正月に走る』ことが目標だったが、一気に10位以内のシード権も手の届く目標となった。出るからにはシード権を目指す」と力強く語る西コーチ。

1920年(大正9)の第1回に東京高師(現・筑波大)、早大、慶大とともに出場(2位)。翌年の第2回大会で初優勝。以後史上初となる連覇(24、25年大会)を含め、戦前に5度優勝。戦後も47年、49年大会を制した。75年、83年大会までは不出場が続いたが、84年の第60回記念大会で復帰。89年大会まで6年連続出場も下位に低迷し、91年の14位を最後に本戦から遠ざかっていた。

競走部関係者のコメント

松本稔部長(商学部教授)



部長になって10年かかりました。6年で(箱根に)出すと心で決めていたの

ですが、やっと出ることができました。これは大学をはじめ、本当に支えてくださった皆様のおかげだと思っています。選手は、お正月、ベストをつくして東海道に「M」のマークを打ち出してください。

遠藤和生監督



出場が決まりました。部員全員で勝ち取った勝利です。いつも言っているように、一人ひとりがきっちりやればきちっとした結果が出る。これが明治の伝統です。本当に長い間お待ちせしました。出られます。正月に行きます。14年ぶりに東海道を走ります。ぜひ応援をよろしくお願いします。

西弘美ヘッドコーチ



今回はちょっとと不安なところもありましたけれど、選手、そして今回出られた3位じゃないかと思えます。本戦はひとつでも上に、10位以内のシード権を目指して頑張りたいと思います。これがひとつのスタートライン、ようやく同じ土俵の中で戦うことができます。これからあと2ヵ月ちょっとですが、ベストをつくして頑張りたいと思います。

明治大学文学部特別企画 シンポジウム

「東洋史からアジア史へ」

変わる世界史、広がるアジア

表題のシンポジウムは文学部の東洋史学専攻が来年度からアジア史専攻へと名称変更することを機として、10月9日に開催された。東洋史という言葉は、いまや古くなっただけではなく、東アジア、とくに中国史のみならず、重点を置いた専攻であるという印象をあたえがちである。だが、現在の日本をとりまく環境は、東アジアのみならず、イスラム世界をも含むアジア全域を対象として、その歴史、文化、社会を広く研究し、かつそれを教育に結びつけることによって、アジア世界に正面から向き合える人材を育てる必要性を要求している。シンポジウムの開催は、われわれ「東洋史」の教員一同のそうした新たな決意を学内外に向けて表明したものである。プログラムは、当初、吉村武彦文学部部長の挨拶、氣質澤保規専攻主任の趣旨説明について、2本の基調講演(森安孝夫大阪大学大学院教授「中央アジア・シルクロードと中国史」、永田雄三本学教授「イスラム世界」と地中海地域」とインド民族

(文学部教授・永田雄三)



「明治大学学園だより」はホームページでも読むことができます
<http://www.meiji.ac.jp/koho/information/pr/gakueniday ori/index.html>

カヌーを通して

足立 美穂

第2回 (全4回)

夢を追いかけて

を忘れてしまいます。どんなに能力を持っていても人間も、普段の生活は同じであることを実感しました。ただ、一流選手の「やるべきややる！」という集中力、メリハリのおかげはすごいと感じました。オフの姿だけを見れば、何年もの苦勞や影を少しも感じさせません。今を見つめて、今を生きている姿が印象的でした。

アテネオリンピックが終わる70日、先日、日本オリンピック委員会から、選手の引退後を考えるシンポジウムの案内がきました。スポーツを第一線で続けるか、引退して次の人生を始めるか、カウンスリングが行われるほど、オリンピックはずいぶん影響力があるものだったのかと自分の人生を考え直させられるこの頃です。

連載第2回目の今回は、選手村や開会式で感じたことについて触れてみたいと思います。

選手村での生活はいたって普通でした。きっと毎日いろんな選手に会っていろいろな刺激を受け、楽しいことばかりある所と期待をしていたのですが、日常生活が日本にいるときと変わらない時間で過ぎていく平凡な毎日でした。毎日生活していると、そこにいる人が漏れなく世界のトップアスリートであるということ



チームメイトの北本選手(右)と開会式で

大舞台で私って感動もできない!という切なさを感じました。夢を実現できたのに、現実感がなく、その感動を味わうことができないのは、自分の感情が壊れてしまっただけだと思っていました。

毎日の生活の中で、とくに目標を持っていなくても楽しく時を刻むことはできます。私もオリンピックが終わってこの2ヵ月、25年間ではじめて何の目標も持たず、自由に思うがままに生活しています。そんな時間があった方がいいのかなあ

と思います、存分に自分を甘やかして、自分を大切にいたわる初めての経験です。目標を達成できるまで何年も試行錯誤して、思い続けた夢を達成し、束縛から解放されたこと

褒美だと思っています。目標は必ずしも勝手に生まれるものでも、好きなものでも、得意なものでもありません。自分で決めて逃げずに向き合うこと、達成

したいと思っています。(カヌー・アテネ五輪日本代表)

お便り、ご感想をお待ちしています。

①学部②学年③氏名④性別を明記。

明治大学広報部『学園だより・カヌーを通して』係

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

koho@mics.meiji.ac.jp



◆足立美穂(あだち・みほ)
02年商学部卒。アテネ五輪女子カヤックフオア5000m9位(カヌー競技日本女子初の決勝進出)。戸田中央総合病院附属看護専門学校職。大分県出身。

10月15日、英語部の創部95周年をロイヤルパークホテルで祝いました。OB会会長・藤本昭氏(S26卒)の開会挨拶、ジェームズ・R・パワーズ商学部教授(英語部顧問)による祝辞、OB会副会長、森谷哲也氏(S31卒、トラベルジャーナル会長)の挨拶の後、乾杯を経て、ジャズバンドによる演奏の中、賑やかな懇談が続きました(写真)。出席者は現役生を含めて200名を超えました。また、英語部は今年7月にも、OBの浅見隆氏(S56年卒、レブロン代表取締役)による記念講演をリバイホールで開催しました。英語部は明治42年(1909年)春、当時商科在学中の山田淳逸氏が、後輩の小滝(旧姓、片山)満治郎氏、三笠良人氏とともに創部し、現在の部員数は156名にのぼります。同部は英語でのディベート、ディスカッション、ドラマ、スピーチの4種類の活動を通して英語力の向上を図るだけでなく、それぞれの価値観を共有、発表する場を提供しています。他大学との交流も盛んで、11月12・14日には英語劇公演(ドラマ)を和泉キャンパスで、12月には板橋杯(スピーチ)、MFD(ディベート)、明治オープン(ディスカッション)をリバイタワーで開催します。また、来たる2009年には盛大に百周年を祝う予定です。



英語部(ESS)が創部95周年

学生相談室主催

『第3回バードウォッチングと豚汁をつくり食べる会』

日時：2004年12月5日(日)
9時30分～16時(雨天決行)
場所：生田校舎周辺
(生田校舎第一校舎4号館
4-203教室集合)

指導員：木崎卓平相談員(農学部)
募集：25名(先着順)
参加費：500円(昼食付)
申込等：11月15日(月)12時～
(参加費持参)
各地区学生相談室、各地区学生課、国際交流センターで受付
※問い合わせは各地区学生相談室まで

英語部委員長・斑目一生(経営学部3年)

理工学部建築学科

アーバンデザイン・スタジオの試み

生活の場としての都市を求めて

「今、都市は熱いか?」。1998年、理工学部建築学科の小林正美教授(当時助教授)の呼びかけに25名の学生が集い、アーバンデザイン・スタジオが開催された。ま

だバブルの爪痕である空地が各所に放置されていた時期である。特に中心市街地の空洞化は切迫した課題となっていた。その後、都市再生本部により中心市街地活性化への対策が打たれるが、経済原則偏重の中で目指すべき都市像といった議論は十分になされず、東京の将来像は未だ見えてはいない。

一方、日本における建築教育においては、工学的専門分野の研究を深める流れの中で、都市と建築は別の専門分野として扱われており、建築設計の課題の中で都市間題が中心課題になる事は極めて少



発表会の風景

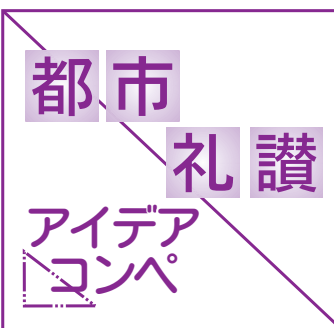
ない。この状況が、都市像を持たないままその主たる構成要素である建築を無自覚に建て続けさせている一因とも言える。このような背景を受けて、冒頭小林教授の呼びかけにより始められたアーバンデザイン・スタジオは、以降毎年開催され今年7年目を迎える。2002年には『設計スタジオ』として正規のカリキュラムに組み込まれ、毎年20名程度の学生が参加している。

このスタジオで試みているのは、生活の場・暮らしの場としての東京の魅力を読み直す事である。江戸時代より日本の政治・経済の中心地である東京は、短期間での近代化、震災・戦災からの復興、バブルの洗礼を経る中で、時系列的には不連続な文脈を失った都市のように見える。しかし、本当にそうであろうか。月島、谷中、渋谷、銀座、日本橋、参加学生達は現地でのフィールドワークを何度も重ね、その街の個性魅力を発見し多くのナゼ?を持ち帰る。古地図や文献資料は、その街の成立過程を教えてください、ナゼはナルホドに変わる。そこにはワクワクするような先人達の息吹がある。都市はもっと魅力的なものなのだ。

スタジオではこの息吹を単純にトレースするのではなく、それをヒントにさらに現代の都市生活者の視点で見つめ直すという作業を行う。少子高齢化に伴う労働人口構成の変化、数年後に訪れる人口減少、環境問題などの諸問題を抱えた都市生活者には、量的供給としての超高層マンションだけでは応じることができない。しかし、先人達の息吹と複雑に積層する文脈を丁寧に読み解けば、自ずと生活の場としての都市の可能性とそれに応じたアーバンデザインのチャンスが広がるのである。

スタジオでは、昨年度開催された国際建築家連合(UiA)主催の『都市礼讃アイデアコンペ』に参加し、日本代表となる日本国内審査生部門入賞5作品のうち2作品を占めるという好結果を得た。

この国際コンペは『自分たちの住む都市や街に問題意識を持つことから始まる。その問題をどのように解決し、豊かな街に変えていくか、街が本来もっていた出会いと創造、そして連帯の場所と空間をいかに回復させるか』を主旨とするもの。参加29カ国の国内審査とその代表作品による最終審査という2段階審査で行われた(残念ながら、最終審査で日本からの入賞なし)。スタジオとしてはそれまでの5年間で蓄積してきたデザイン手法を確認し社会に問うためにも、このコンペへの参加が有効であると考へた。

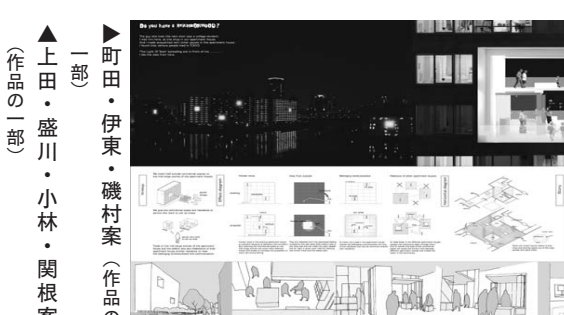
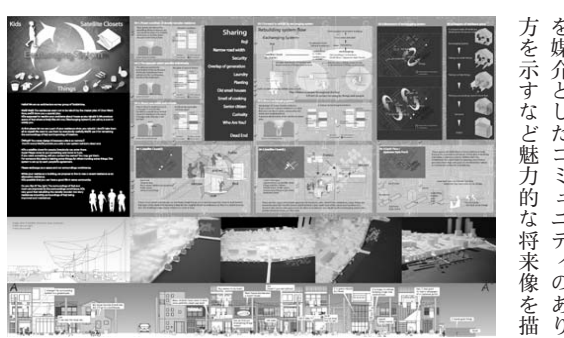


受賞した2作品のうち、町田方を調査する事からヒントを見出し、集合住宅の中層階に近隣住民を主な対象とした商業空間を挿入し、それをネットワーク化するという提案に結びつけた。上田貴史、盛川健太、小林賢太、関根健介さんの作品は、老朽化する月島の

性とそれに応じたアーバンデザインのチャンスが広がるのである。スタジオでは、チャンスを活かしデザインに導ける学生ばかりではない。しかし本来の人間の環境形成に生活に立ち返り、建築と都市・社会を不可分な連続として悩みぬいた経験は必ず実社会で活かされるものであるし、還元してくれる事を願っている。

〔設計スタジオ〕担当兼任講師・高橋 潤

情報科学センターアシスタント募集
2005年度情報科学センターのアシスタント(TA)を募集します。
◆応募資格
2005年度本学大学院生で、1週あたり6時間から12時間勤務できる方
◆応募期間
12月1日(水)~14日(火)
◆業務内容
・情報教育の授業に関する補助業務
・情報実習室における相談対応
・パソコン等機器の使用説明
・講習会の講師等講習会運営業務
・その他、情報科学センター業務
◆勤務場所
駿河台・和泉・生田の情報科学センター
◆問合せ先
各地区情報科学センター
駿河台: 12号館7階 教育研究システム課 (03-3296-4438)
和泉: 第一校舎地下1階 (03-5300-1189)
生田: 中央校舎5階 (044-934-7710)
ホームページ: http://www.meiji.ac.jp/isc/



町田・伊東・磯村案(作品の一部)
上田・盛川・小林・関根案(作品の一部)

住宅群に対し、いかにコミュニティを維持、発展させながらその更新を行うかという、これも難しいテーマであった。提案では、緻密なフィールドワークによりそれを解きほぐし、リサイクルシステムを提示しながら路地の魅力を再生、子どもを媒介としたコミュニティのあり方を示すなど魅力的な将来像を描いた。他に、明大からは3組が出品している。中には日本代表5作品に劣らぬ魅力のある作品もあり、全体的に明大のレベルは高かったといえる。

相談室の窓から

千葉 貴 律
(相談員・経営学部助教授)

4月に学生相談員となってから半年。相談室に入ると密かに感じていた緊張感も、ゆるゆると緩んでくる。良くも悪くも「慣れ」てくる。すると、これまで緊張してあまり見えなかったものが、少しずつ見えるようになってきた。

新米相談員が見るもの

最初に気づいたのは、緊張しているのが私だけではないことだ。相談者である学生諸君の緊張も相当なもの。新米相談員と、その新米に初めて会う相談者とが向き合っている互いの緊張をぶつけ合うのだから、かなり疲れる。相談員がヘトヘトならば、相談者もクタクタであろう。ホント、申し訳ない。願わくは「相談室は疲れる」なんて風評が立たないことを……

次に気づいたのは、相談者の中に「かつての私」が垣間見えることである。相談内容それ自体は相談者に固有のものであるが、同じようなことを考え、悩んでいた自分がいいたことを思い出す。些細なことにつまずいて、腹を立てたり、嘆いたり。クヨクヨした挙句、自分を守るために虚勢を張り、敢えなく歩いているのと同じ問題、別の角度から抱える同じ問題を、別の角

が、時間をずらせば、「現在の相談者」と「過去の相談者」の成り損ない(?)の対面である。「過去の相談者」たる相談員は、現在の相談者の少しだけ前を歩いているに過ぎない。いや、ひょっとすると、前すら歩いていないのかもしれない。相談者が抱える同じ問題を、別の角度から抱えるのか、知らない。眺めたのは10月だった。

相談員としての視座を変えることで、新米相談員は、自分自身を「時空を超えた相談者」にする。なにぶん「相談者」であるから問題解決能力などない。それでも、少しは学生諸君の話を聞くことが増えたような……。最近、相談室の事務長さんの机の後ろにお洒落な絵が架かっていることに気づいた。いつからそこにあるのか、知らない。ただ、新米相談員がびっくりしたのを見たのは10月だった。

英会話春期集中講座 受講生募集

この講座は、ネイティブ・スピーカーを講師として、合宿、少人数クラスで実施します。短期間で集中的に英語のコミュニケーション能力を養うことを目的としています。

- 開講期間：2005年3月9日(水)～16日(水) (7泊8日)
 - 開講場所：清里セミナーハウス
 - 応募資格：本学・短期大学学生、大学院生
 - 募集人員・クラス：約80名・4クラス(予定)
(選考試験により受講者を決定)
 - 単位認定：あり。ただし、学部4年生、短期大学2年生、大学院生の単位認定はなし
(2004年度学部間共通外国語シラバス7～26ページ参照のこと)
 - 使用予定教材：プリント教材・映画台本等
(映画台本の場合、約1,500円)
 - 授業方法：午前レベル別クラス、午後課題別クラス
(日本語の使用を一定時間帯禁止)
 - 講師：ハウス、ジェームス C. 情コミ教授 他
(ネイティブを中心とした明大教員)
 - 授業時間：1日(約7時間)
 - 申込受付日等：11月29日(月)・30日(火)
各地区教務課
ネットでも受付中(明大HPから)
 - 選考試験：12月8日(水)・9日(木)
 - 手続期間：12月13日(月)～17日(金)
 - 諸費用：52,985円
 - 修了証：講座修了者には英文修了証を交付
- ◎詳細は「学部間共通外国語英会話春期集中講座要項」
(各地区教務課、学部事務室等で配布中)
◎問い合わせ等詳細は各地区教務課まで
<http://www.meiji.ac.jp/edu/syunk001.htm>

明治大学学部間共通外国語教育運営委員会

英会話合宿以上の英会話合宿

春期集中講座に参加して

1年生の終わり、この合宿に初めて参加すべく、一人で合宿所に向かう道中に感じていた英語での合宿生活に対する不安と心細さは、今でもよく覚えています。ところがいざ始まってみると、むしろ心躍らせて向かうべきだったとすぐに思い直すことになりました。

この合宿は、普段の生活ではなかなか作り出すことのできない、全て英語で物事を考え、意思疎通を図らなければならないという環境を提供してくれます。一週間英語漬けになり、その漬かり方だけで、英語のみの環境にも慣れて短期間でかなりのスキルアップが望めるわけですから、私もこの合宿に参加する

たびに、周りから数多くの刺激を受け、考え方を学び、そして何よりも、互いに共感し、尊敬し合えるようなかけがえのない仲間を手に入れました。こうして得られる学年も学部も越えた、まさに縦横無尽の英語ネットワークは、英語に限らず様々な場面で広く長く活躍し、その後の大学生活を本当に豊かで楽しいものにしてくれます。

1年生から大学院生まで、時には日常から離れて、自分の人間力を磨いてみたいという人には、ぜひ参加してみることをお勧めします。自分に対する厳しさ、食欲さ、それに遊び心さえ忘れずに持って行けば、この合宿は必ずや素晴らしい一週間を演出し、あなたに期待以上のものをもたらしてくれるでしょう。

英語漬けの一週間



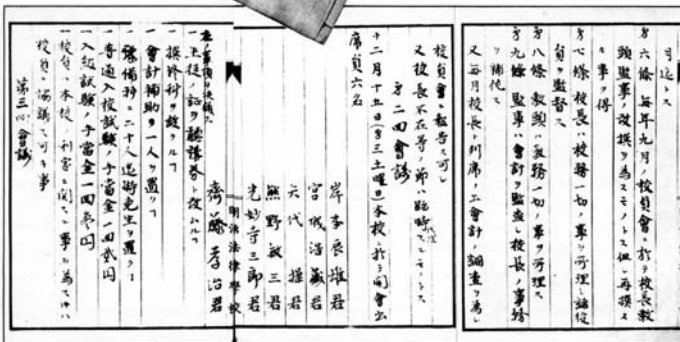
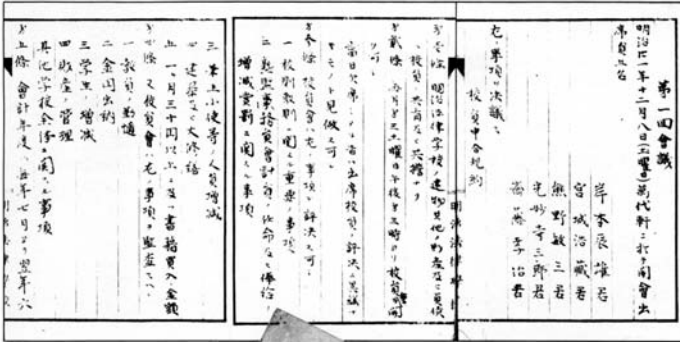
長瀬陽介(理工学部4年)

大学史の散歩道



大学史資料センター委員

別府 昭郎 (文学部 教授)



校員決議録 (明治大学刊『図録・明治大学百年』)

明治大学の意思決定システム

学生たちにもっとも関わり合いのある教育内容とか授業料は、誰が、どこで、どういう手続きで、決めるのであろうか。今回は、明治大学の意思決定システムのうち、学部教授会と理事会について述べることにしよう。

歴史を振り返ってみると、本学が創設された当初は、岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操の三人を中心に意思決定がなされていたと推測される。この時期は、岸本辰雄も、

この会(校員会と呼ばれる)の成員は岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操の三人のほか、熊野敏三、光妙寺三郎、齊藤孝治などであった。この会は、一人が独裁的に決めたのではなく、幾人かで審議・討論してものごとを決めていく合議制であった。合議制は、ヨーロッパの大学で歴史的に形成されてきた意思決定のシステムである。合議制は、成員がほぼ同じ権利をもっている大学のような組織に合致したシステムと言える。

これに対して、理事会は、どの土地に、どういう建物を建てるか、授業料をいくらにするか、教員や事務職員の給与をいくらにするかなど、教育・研究を遂行していくために必要な条件整備について責任を負っている。

理事会は、本学では、現在のところ、理事長、総長兼学長、総務理事、財務理事、教務理事、学務

理事、以上六名を常勤とし、三、四名の非常勤理事から構成されている。

学部教授会と理事会は、どちらが上とどちらが下というヒエラルキーの関係はない。したがって、学長と理事長とは、どちらが偉いかという問題設定は意味をなさない。その理由は、責任を負っている仕事の領域が違うからである。しかし、大学が、「二世紀のヨーロッパで、「教師と学生の組合」(universitas magistrorum et scholarium)として結成された」という歴史を考慮にいれるとき、教育機能が大学の中核的部分をなしていることは、事実として指摘しておかなければならない。

現在の明治大学の日常的な意思決定システムを見てみよう。それは、合議制を基本として、大きく分ければ、学部教授会と理事会によって、行われているので、この二つについて、述べよう。

学部教授会は大学の教育全般に関わる事項に責任をもち、理事会は教育・研究を除く大学の運営に関わる事項に責任をもち、この二つのことを更に詳しく言えば、学部教授会は、どういう学問内容を、どの学年で、いかに教えるかを決める。すなわち、教授すべき学問領域、教授する対象となる学生、教授する教員、教員の職格などを決定するのが、学部教授会と言いたい。

したがって、学部は、①学問の組織体、②教員と学生という人の

政治経済学部ゼミナール協議会主催

荒俣 宏氏「講演会」

～サプライズを喚起する力～

この度、政治経済学部ゼミナール協議会では『トリビアの泉』などでお馴染みの博物学者の荒俣宏氏をお招きして講演会を開催致します。大学時代の思い出や学生だからできること、学生時代に求めるべきものなど、当時の経験、荒俣氏ならではの博学をふまえて講演していただきます。

日時：2004年12月3日(金)
開演：18時～20時(17時30分開場)
場所：駿河台校舎リパティタワー1階
リパティホール

※入場無料・申込不要
※問い合わせ等詳細は政治経済学部事務室まで
(電話 03-3296-4172)

『明治大学学園だより』はホームページでも読むことができます
<http://www.meiji.ac.jp/koho/information/pr/gakuenidayori/index.html>

明大ニュース

マレーシアに協定校

マレーシア工科大学

明治大学とマレーシア工科大学はこのほど、大学間協力協定を締結した。今回の協定締結により明大の協定校数は、学部間交流も含め16の国と地域・27大学となった。マレーシア工科大学は、マレーシアにある19大学のうちのひとつで、学生数3万2千人を擁し、特に自然科学系分野が充実している総合大学。創立は1900年代初頭にまで遡り、72年に現在の体制に整備され国立大学として開校。のちに本拠地をクアラルンプール市からジョホールバル市に移転・拡張して現在に至っている。

当面は、研究者が中心の交流になると思われるが、近い将来、学生交流も開始される予定である。

勝ち点2の4位

東京六大学野球秋季リーグ戦

11月1日に全日程を終了した東京六大学野球秋季リーグ戦。春・秋連覇を目指した明大は、勝ち点2の4位に終わった。

第6週は対慶大戦。1回戦をエース清代渉平(経営2)の5安打11奪三振の力投で完封勝ち(3-0)したものの、2回戦は慶大の1年生・加藤に4安打に抑え込まれ完封負け(0-8)。続く3回戦も慶大投手陣を打ち崩せず1-6で

東京六大学野球 2004 秋季リーグ戦勝敗表

(全日程終了)

順位	校名	試合	勝点	勝	敗	分	率	慶大	法大	早大	明大	立大	東大
1	慶大	13	4	9	3	1	.750	—	〇〇	〇〇	●〇〇	△●〇●	〇〇
2	法大	12	4	8	3	1	.727	●●	—	〇●〇	〇〇	△〇〇	〇〇
3	早大	11	3	7	4	0	.636	●●	●〇●	—	〇〇	〇〇	〇〇
4	明大	12	2	5	7	0	.417	〇●●	●●	●●	—	〇〇	●〇〇
5	立大	14	2	4	8	2	.333	△〇●〇	△●●	●●	●●	—	●〇〇
6	東大	12	0	2	10	0	.167	●●	●●	●●	〇●●	〇●●	—



タックルを振り払う加藤郁己(政経4)
[写真提供・明大スポーツ]

関東大学ラグビー対抗戦日程 (11月3日現在)

月日	スコア	対戦相手	時間	会場
10 3	〇35-0	日体大	(14:00)	足利
10 10	〇57-17	青学大	(14:00)	高崎
10 24	〇22-13	帝京大	(14:00)	秩父宮
11 3	●33-54	慶大	(14:00)	秩父宮
11 14		筑波大	(14:00)	秩父宮
11 21		立教大	(14:00)	駒沢
12 5		早大	(14:00)	国立

明大が慶大に33-54(前半14-26)で敗れ、3勝1敗となった。3連勝でむかえた対慶大戦。開始1分37秒に幸先良くF B黒木孝太(文3)が先制トライを決めたものの、前半8分のトライで逆転さ

慶大に54失点

関東大学ラグビー対抗戦 (3日・秩父宮)

残り試合は最後の明早戦を含めて3試合。優勝のためには一敗もできなくなかった。

2回戦は1点を追う明大が5目に2死3塁から西谷尚徳(文4)が右越え2ランを放ち逆転に成功し、9回にも西谷が適時打を放つてダメ押し。明大先発の水田裕(文1)が6回を投げて2失点で

頑張り競走部!

箱根駅伝出場壮行会

ついに目覚めた古豪明治の韋駄天達。箱根の山を吹き抜ける疾風となれ!

日時: 11月26日(金)
11時45分~12時15分
場所: 駿河台校舎リパティホール

~今年はアカデミーコモン前が熱い~ ラグビー部激励会

国立競技場で死闘を繰り広げるラグビー戦士達をみんなで激励しよう!

日時: 12月5日(日)
明早戦ラグビー終了後
場所: 駿河台校舎アカデミーコモン前広場
※詳細は各地区掲示板にてお知らせします。

演奏会だより

☆明治大学マンドリン倶楽部

第155回定期演奏会☆
アメリカン・ドリムス

日時: 11月21日(日)
昼の部/13時30分開場
夜の部/17時30分開場

会場: 日本青年館大ホール
J R信濃町・千駄ヶ谷駅より徒歩7分
指揮者: 甲斐靖文、大浦光
ゲスト: ペギー・葉山
演奏曲目等

第一部: シンフォニック・古賀メロデー
「影を慕いて」 「綺想曲」 「酒は涙か溜め息か」 ほか

第二部: 卒業演奏
第三部: アメリカンドリーム
「アメリカン・パトロール」
「君の瞳に恋してる」 「シング・シング・シング」 「リパブリック賛歌」 ほか

チケット
S席: 3000円、A席: 2500円、B席: 1500円、学生席: 500円
※学生席は学生証提示のこと
申込み、問い合わせ: ☎090-8018-6466(平日13時~17時)

☆明治大学応援団吹奏楽部
第52回定期演奏会☆
日時: 12月10日(金)
17時30分開場、18時開演

会場: 江戸川区総合文化センター・大ホール
J R新小岩駅南口より徒歩15分

J R新小岩駅南口よりバス
演奏曲目等
第一部: Miss Saigon
A symphonic Portrait
「キャンディーズ」序曲」 ほか

第二部: 「ビザンティンのモザイク画」
第三部: ドリルステージによる「KARN EVIL 9」 「もののけ姫」 ほか

チケット: 5000円
問い合わせ: ☎0800-1168-0941(朝生亜矢子)

“東洋のストラディバリ”
陳昌鉉氏(56年文卒)のバイオリンにかけた波瀾の半生をドラマ化

『海峡を渡るバイオリン』

放送日時: 11月27日(土) 20時03分~22時54分(予定)
放送局: フジテレビ系列
原作: 「海峡を渡るバイオリン」
(陳昌鉉=語り、鬼塚忠・岡山徹=聞き書き)
河出書房新社 刊
出演: 草薙剛、菅野美穂、オダギリジョー、田中邦衛、田中裕子 他

第4回

生明祭に行こう!!

11月21日(日)~23日(火・祝)

2003年度生明祭風景



『生明祭』が11月21日(土)から23日(火・祝)に生田校舎で開催される。今年度のテーマは「幾多の心」。サークルやゼミによる研究成果の展示・発表をはじめ、模擬店、お笑いライブ、バンドライブ、フリーマーケットなど様々なイベントが行なわれる他、生田ならではの農産物販売や花卉販売も予定されている。

生明祭開催による休講
(生田校舎のみ)

11月20日(土) 午後
22日(月) 全日

笑いあり涙あり！ 飛び入り参加企画もあり！

- * 理工展 (11/21~23) 理科部連合会所属17サークルによる研究成果の展示・発表
- * お笑いライブ (11/21) テレビ等で活躍中のお笑い芸人によるステージロバート、カラテカ、タカアンドトシ
- * Be 夢ライブ (11/22) 特設ステージで行われる学生によるバンドライブ
- * フリーマーケット(11/21~23) 晴れなら植村直己記念碑前の芝生で、雨でもハイテクリサーチセンターピロティにて開催。値段交渉も楽しみのひとつ
- * フットサル大会 (11/22) 東グラウンドで開催。豪華商品あり!!
- * 農産物販売 (11/21) 大学付属農場で収穫された農産物を格安で販売!
- * Mr. 明治 (11/23)
- * グルメクイーン (11/21)
- * 生田民コンテスト (11/21) 当日飛び入り参加大歓迎のイベントが盛りだくさん。もちろん豪華商品が出ます。優勝者はあなた!?

◎生明祭の詳細、最新の情報は公式ホームページで確認してください。

URL:<http://www.isc.meiji.ac.jp/~ikumei>

11月21日(日)~23日(火・祝)の3日間、明治大学生田キャンパスにおいて「第4回生明祭(いくめいさい)」が開催されます。今年度のテーマは「幾多の心」です。この生田キャンパスにある理工・農学部にはそれぞれ様々な学系があり、また研究系や体育系など様々なサークルがあります。その各々の団体が研究や作品発表、学外での活動などを行っており、色々な考えや想いを持っています。その考えや想いをみなさんに感じてもらえるような学園祭にしたいと思ひ、また今年度も学園祭を開催したいという多くの心を表すという意味も込め、今回テーマを「幾多の心」としました。

今年度の生明祭は、現在注目の人気お笑い芸人ロバートを中心にカラテカ、タカアンドトシを呼ぶことが決定している他、100団体程が参加する模擬店、理工学部機械工学科の藤井石根先生と農学部農学科の倉本宣先生による講演会、今年50周年を迎える理科部連合会をはじめとする研究発表など、多くのイベントを行う予定です。

この他にも当日参加できる企画も用意しておりますので、みなさんは是非生明祭にお越し下さい。

テーマは「幾多の心」

生明祭実行委員会委員長

竹松 伸祐 (理工学部4年)